

平成26年千葉市教育委員会会議
第8回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成26年千葉市教育委員会会議第8回定例会会議録

日時 平成26年8月28日(木)

午前10時00分開会

午前11時20分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 和田 麻理
委 員 篠原ともえ
委 員 内山 英夫
委 員 中野 義澄
委 員 明石 要一
教 育 長 志村 修

出席職員 教 育 次 長 田辺 裕雄 保 健 体 育 課 長 津野 政彦
教 育 総 務 部 長 米満 実 教 育 セ ン タ ー 所 長 遠 藤 悟
学 校 教 育 部 長 磯野 和美 養 護 教 育 セ ン タ ー 所 長 山 本 雅 司
生 涯 学 習 部 長 朝生 智明 生 涯 学 習 振 興 課 長 増 岡 忠
総 務 課 長 石野 隆史 中 央 図 書 館 長 松 尾 修 一
企 画 課 長 大崎 賢一 生 涯 学 習 振 興 課 文 化 財 保 護 室 長 横 田 正 美
学 校 施 設 課 長 真田 賢一 生 涯 学 習 振 興 課 科 学 教 育 推 進 担 当 課 長 西 村 安 正
学 事 課 長 小川 彰 学 事 課 長 補 佐 布 施 善 幸
教 職 員 課 長 伊藤 剛 指 導 課 主 任 指 導 主 事 吉 野 精 一 郎
指 導 課 長 山本 幸人

書 記 総 務 課 長 補 佐 山本 春樹 総 務 課 主 任 主 事 佐 久 間 暁 子
総 務 課 総 務 係 長 渡 邊 実 総 務 課 主 事 荒 井 博 行
総 務 課 主 任 主 事 杉 山 隆

- 1 開会
和田委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
和田委員長より明石委員を指名
- 4 会期の決定
平成26年8月28日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 議事の概要
 - (1) 報告事項
報告事項(1) 平成26年度「子ども議会」について
山本指導課長より報告があった。
報告事項(2) 平成26年度千葉市小・中学校教育課程研究協議会について
山本指導課長より報告があった。
報告事項(3) 平成26年度中学校体育大会の結果について
津野保健体育課長より報告があった。
報告事項(4) 平成26年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技大会の結果について
津野保健体育課長より報告があった。
 - (2) 議決事項
議案第34号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検及び評価について
大崎企画課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
議案第35号 千葉市立高等学校授業料等徴収条例施行規則の一部改正について
小川学事課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
 - (3) 発言の要旨
報告事項(1) 平成26年度「子ども議会」について
和田委員長 指導課長、報告をお願いします。
山本指導課長 報告事項(1)「平成26年度『子ども議会』について」、報告

します。

去る7月29日（火）、千葉市議会本会議場にて子ども議会を開催しました。

子ども議会の目的は、「子ども目線に立った意見を市政に生かすようにする。」「本市の将来を担う子どもたちが、千葉市の現状と課題について話し合い、『市民一人一人がいきいきと幸せに暮らせるまちづくり』に向けた具体的な提案・質問を行う中で、千葉市民としての意識を高められるようにする。」ことです。本年で5回目を迎えています。

当日は、市長、両副市長、こども未来局長、教育長、教育次長をはじめ、千葉市議会宇留間議長、福谷副議長、三須教育未来委員長、植草教育未来副委員長の出席のもと、小学校5、6年生55人の子ども議会議員と昨年度子ども議会議員だった中学生12人がファシリテーター役として参加しました。

今年は7つのテーマのグループに分かれ、日常生活からの課題について話し合い、アンケート調査や実地調査等をもとに、行政に積極的に取り組んでほしいことや、自分たちができること、果たすべき役割について考え、提案・質問を行いました。

また、子ども議会議員の提案・質問に対しての市長、副市長、教育長の答弁には、子ども議会議員の提案・質問に対してのわかりやすい説明と励ましの言葉が織り込まれ、参加した子ども議会議員も充実感を味わえたことと思います。

今回の様子を写真にまとめましたので、ごらんください。

劇など、いろいろ工夫した発表になっていました。今回は再質問や意見などもあり、非常に元気よくできました。

8月2日にNHKから、千葉市議会と子ども議会が非常によくやっているということで取材があり、8月2日の朝のニュース「深読み」というコーナーに子どもたちが生出演をしました。この写真は収録後の記念写真でございます。

今後は、子ども議会での提案・質問と答弁の内容を整理し、子ども議会議員の事後のレポートも踏まえて報告書を作成し、各学校へ配布することにより、子どもたちの発想と意欲を生かした主体的な取組みを促すようにしていきたいと考えています

明石委員 できたら、子ども議会、今年で何回目かというのを入れてくれるとわかりやすいです。今度で5回目になるのでしょうか。

和田委員長 そうですね。

明石委員 そうしないと連続性が見えないです。これから、ぜひ、そのような形で表記してください。

次にお願いしたいのは、参加した55人の子どもの動機をどこまで押さえているのか教えてください。終わった後、すぐ調査をし、その後、中学校に上がったときなどにどう変わってきたか、その55人の集団を5年くらいのスパンを置いて追ってもらくと、非常に変わってくると思います。その場合にすぐ効果があらわれるような意識調査と、じわじわきいてくる意識調査、例えば自尊心感情というのは意外とゆっくり高まるかもしれないけれども、進路がはっきりするなどといったことを含めて、このような子どもたちが社会参加するとどう態度変容するかというデータや事前と事後と、それからその後のアウトカムをとっていますか。これまでの教育委員会は、なかなかそのようなエビデンスを残してこなかったので、今回は小学生、次は中学生、というようにとっていけば非常に貴重なグループとなります。指導課が非常に良い指導をしていますし、5回であそこまで鍛えるというのは相当力がある教員がサポートしてくれたので、それを結果として残さないといけないと思います。一部の方は知っていますが、ほかの教員は余りわかっていないので、そのような意味で、まずこれまでの5回でそのようなエビデンスをとっているのか、とっていないのかが質問の一つです。とっていないければ、これからはそのようなことをお願いしたいというのが意見です。

もう一つは、この前、市長のツイッターを見たら、千葉市の子どもたちが「きぼーる」に集まっているいろいろな会議をしていましたよね。

和田委員長 CBT。

明石委員 あの、こどものまちチバタウン、CBTの情報について、なぜ教育委員の私たちに連絡がないのか。その辺が教育委員会は、まだ学校教育の発想があるのです。あれは、「きぼーる」に集まって子どもたちが参画して、市長への意見箱をつくっているわけでしょう。

だから、事務局にお願いしたいのは、学校だけ、教育委員会だけの発想ではなくて、せっかく、この子ども議会をやっているならば、それと付随した催しがありますよという情報は流してもらいたいと思います。行く、行かないは事情がありますから。でも、ツイッターを見ていたら、今から開会宣言と言っているから行き

ようがなかったです。だから、子ども議会とC B Tは、どこが一
緒で、どこが違うかを比較してみたいと思ったのです。

山本指導課長 まず、動機の調査ですけれども、子どもたちがどのようなこと
を提案したいとか質問したいという調査はしていますが、動機の
調査はしていません。終わった後の調査ですが、アンケート調査
で、どのようなところがよかったなど、調査をしています。その
後中学生になってどうなったかというようなことは、現在行って
いません。

もう一つ、C B Tですが、これはこども未来局が主催していま
すので、そちらと連携をし、実施日時等をお知らせしたいと思
います。

和田委員長 今、明石委員から提案のありました今後の長期的な、子ども
たちが成長する過程でどのような効果があったのかというよう
なことを、これから少し考えてもらいたいということでしたが、
その点についてはどうでしょうか。

山本指導課長 どのような項目で、どのような目的でというところも含めて検
討して参りたいと思います。

明石委員 検討なのか、実施なのか。検討という言葉は行政用語で、や
らなくていいのだから。やはり実施しなければいけないのです。
この55人の集団を5年、6年追っていくような展望を持って組
立てをしないと、結局、人が替わったら、あとはもうその流れが
わからなくなってしまいます。私がいるのだから、もっと活用し
てください。そのようなエビデンスを残していくのは千葉市を含
めて、千葉県、日本全国、文科省も弱いです。だから、今からで
きますから、これからも55人の児童に対して、ぜひチームをつ
くって、早く調査をしてほしいです。

行政が忙しければ、教育センターの職員の力を借りて、そのた
めに教育センターがあるのだから、すぐお願いします。

和田委員長 それは子ども議会に限ったことではなく、ほかのプログラム
でも、例えば未来の科学者育成プログラムなどでもそうだと思う
のですが、できる限りのことを、明石委員を活用してほしいと思
います。検討ではなくというのは、本当に強い言葉ですので、私
たちからもお願いしたいと思います。

内山委員 今の件は、大切な視点だと思います。ですから、その子ども
たちが中学校に入ってからどのような行動をとるか。例えば、生
徒会や、催し物に対してどのぐらい積極的に取り組んでいるだろ

うかといった視点で見れば違いがわかると思います。本当によかったのかどうか、その効果がずっと続いていくかという感じがします。

また、一つ確認したいのですが、今回、小学生が中心ですが、中学生が数人支援しましたね。これの評価、要するに中学生は表に出ないけれども、形としてどのくらい効果があったのかという、その辺を教えてもらいたいのです。

山本指導課長 数値等では示すことはできませんけれども、今までは大人である指導主事が中心に引っ張っていったというところがあります。今回は、指導主事は後ろでサポートする形で、去年の子ども議会に出た経験を生かして、中学生がファシリテーター役として小学生の意見を引き出して、提案・質問に持って行けたと考えています。2回目の意見や質問が出たのも中学生のファシリテーターを導入したことの一つの成果であると評価しています。

篠原委員 感想と質問ですけれども、今年は、傍聴者の方がとても多かったと思います。そのような点では市民の皆さんに少しはこのことがわかっていただけたのではないかなと非常に思いました。

また、やはり子どもの視点から見た千葉市というものを、私たちも見る事ができて本当に良かったと思います。先ほど明石委員からもありましたが、C B Tと子ども議会は、市長の発案だとは思いますが、どのような形でコラボするのでしょうか。ここ3年くらい、いつもそのことを思いながら、どちらも見せてもらったのですが、もう少し一緒にできる時があったら良いと思うのですが、いかがでしょうか。

山本指導課長 コラボについては、こども未来局が中心になって、子どもの参画事業を実施していますが、その子ども参画の中で、C B Tはこども企画課に、子ども議会は教育委員会に任されています。子ども議会は、公募ではありますけれども、一人一人ではなくてクラスの代表、学校の代表なんだという気持ちで、子ども議会の成果をクラスや学校に持ち帰って広めてほしいというところがあるので、教育委員会で受け持っています。

このような意見があったということをこども未来局とも話をしていきたいと考えています。

明石委員 それならば、なおさら子ども議会とC B Tについて同時にサーベイすれば良いのです。そうすれば、狙いがどう違うかがわかると思います。

それこそ、狙いが違うから違うセクションがやるということは、良いことなのです。その狙いの違いをデータで示して、それぞれの持ち味があればそれで面白いと思います。前に成人式で話しましたけれども、その点はもっと、タコツボに入るのではなくて、こども未来局と教育委員会はもう少しパイプを持つと良いと思います。同じ千葉市の子どもの社会参画に対して違うアプローチでやっているわけで、非常に面白いと思いますので。その2つの集団を見ていけば、それぞれの良さがわかるのではないかと思います。教育委員会の主張は、学校を通して広めていきたい、これは非常に面白いです。その辺が出るような形で、比較対象があるのだから、それこそ相談ではなく、教育委員会が手を挙げて一緒にやりましょうというくらいの提案をすれば良いと思います。私はC B Tがこども未来局主催だとは知らなかったですが、もう3年もやっているのですか。

山本指導課長 はい。子ども議会と同じくらい前から実施しています。

明石委員 だから、そのような情報が必要なのです。

ぜひ、お願いしたいです。行政のタコツボに入ったらダメなのですよ。タコツボから出てきて、千葉市の子どもの社会参画をどうするかという視点で考えてもらうと良いかと思います。

和田委員長 それぞれの持ち味を生かしながら、必要なところは協力し合い、同じようなデータを取ろうということですね。一緒に活動するというのではなくて、それぞれの持ち味で続けながら、より一層、こども未来局との対話をお願いしたいと思います。

私も当日出席しましたけれども、多分私たちが出席するようになって今年で3回目だと思うのですが、当日は今までで一番活発な意見が出て、今までで一番議会らしい議会になったと思いました。そこで、やはり小学生のほうが自由闊達な意見も言えますし、伸び伸びと当日もやってくれますので、中学生を1年置きで小学生を毎年というわけにもいかないでしょうが、中学生は生徒会交流会が別にありますから、卒業生としてファシリテーターで入ってもらって、毎年小学生でも良いような気がしました。お考えいただければと思います。

報告事項(2) 平成26年度千葉市小・中学校教育課程研究協議会について

和田委員長 指導課長、報告をお願いします。

山本指導課長 報告事項(2)「平成26年度千葉市小・中学校教育課程研究協議会について」、報告します。

本年度より従来行われていた小・中学校別の2日開催の形に戻し、千葉市民会館などを会場に、8月5日（火）に小学校、6日（水）に中学校を対象に教育課程研究協議会を開催しました。

その目的ですが、学習指導要領の趣旨等の理解を深めるとともに、小・中学校の教育課程の実施上の諸問題を研究協議し、その解明を図り、小・中学校教育の改善及び充実を図ることです。

参加者は小学校953人、中学校768人で、総数1,721人は千葉市教職員4,396人の約40%に当たります。

各部会に各校代表1人の参加となりますが、小学校に関しては会場の関係で、一般総則部会以外は113校を2つに分け、隔年参加としています。

全体会では、学校教育部長の主催者挨拶の後、「生きる力」を育む教育課程の工夫・改善に向けて、学びの連続性を重視した指導の充実をテーマに、千葉市教育施策の基調、千葉市学校教育の課題、わかる授業の推進に向けて、教育相談・生徒指導の充実、特別支援教育の推進について説明しました。

引き続いての研究成果発表では、昨年度より一つ発表を増やし、小、中それぞれが3つの発表を行いました。

小学校では、研究指定校の成果発表として海浜打瀬小学校の杉岡潤教諭、大久保桂教諭が、「自ら問える子を育てる算数学習、算数授業改善の試み」についての発表を行いました。

また、海外派遣研修の成果発表として打瀬小学校の藤江博厚教諭が、「ドイツの学校教育における言語力・表現力育成の手立て」についての報告を行いました。

千葉市教育センターからは、「千葉市小・中学生の学習意識の推移に関する研究」について柳谷昌代主任指導主事が発表を行いました。

中学校では、研究指定校の成果発表として、川戸中学校の佐々木能之教諭と川戸小学校の細嶋明美教諭が、「9年間で育てていきたい『生きる力』を育む指導の工夫」として、小・中連携教育の研究発表を行いました。

また、海外派遣研修の成果発表として幕張中学校の中村洋介教諭が、「イギリスの規範意識を培う教育」についての報告を行いました。

千葉市教育センターからは、「確かな学力の育成に関する研究Ⅱ」について、長谷川恭子指導主事が発表を行いました。

各部会では、6月30日、7月1日に開催された文部科学省主催の各教科等担当指導主事等連絡協議会で、説明・協議された内容の伝達や、趣旨に沿った実践研究発表及び協議が行われました。協議方法も、グループ協議の工夫、プレゼンテーションソフトを活用した提案、シンポジウムを取り入れた協議など、さまざまな工夫が見られました。

また、部会によっては、小学校部会へ中学校の教員が提案したり、小、中学校2人の指導主事による運営が行われたりと、2日開催を生かした取り組みが見られました。

参加者には、本会の協議内容を各学校で周知してもらい、「わかる授業」の推進に向けて授業の工夫改善に努めていただければと考えています。

今後も、「わかった」「できた」という児童生徒の学ぶ喜びの声を励みに「夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども」の育成に努めて参ります。

内山委員 今年は中学校の全体会を見たのですけれども、非常に問題をきちんと捉えて、特に川戸中、川戸小の共同研究は非常に感銘しました。やはり実践的に取り組んで、何がどう問題かということを経験しながら問題解決に向かっていく姿勢は、非常に大切だと思います。今後とも、この活動に期待したいと思います。

篠原委員 私も中学校の午前中の全体会へ出席したのですけれども、海外派遣の研修についてもとても有意義で、そしてまた違うところの視点を持って発表していたのが、とても良かったと思いました。また、磯野学校教育部長やいろいろな先生の最初のお話もとても良く、感銘しました。ありがとうございました。

和田委員長 私も中学校の全体会に出席しましたがけれども、昨年までと比べて発表もいろいろな分野からいろいろな形であり、非常にバラエティに富んでいました。問題意識が最初にはっきりした形での発表だったので、聴衆を飽きさせることもなく、訴える力もとても大きく、今後もこのような形でやってもらえたらなと思いましたので、よろしくお願ひします。

明石委員 私は参加していないのですけれども、2つ質問させてください。

1つは、この教育課程研究協議会と、千葉市教育研究会との結びつきはどうなっているのでしょうか。その各部会で集まって先生方は勉強会をしていますよね。それと、この「学びの連続性を

重視した指導の充実」というのがサブテーマであります、その結びつきはどうなっているのか聞きしたい。

2点目は、学びの連続性と言っておいて、今年は小、中で別にやりましたよね。普通、学びの連続性の場合は、小と中と合同でやった方が連続の問題もわかりやすいでしょう。文科省が、小中一貫のことをしきりに言っているのに、どうも時代に逆行するのではないのでしょうか。そこまでいかないけれども、なぜ別々にしたのか、意図があれば教えてください。

山本指導課長 教育課程研究協議会は、文科省の指導と本市のわかる授業推進等を伝達すること、そして現在の課題を教員で協議することを目的で行っています。千葉市教育研究会は、教育委員会とは連携はしていますが、別団体ですので、8月の第3火曜日に講演会を開いて、午後に、研究協議を行ったり、または毎月行っているものです。それぞれが子どもたちのために研究しているところで、結びつきは非常に強く、指導主事も市教研に参加をして助言等をしたり、勉強しているというところです。

先ほど、学びの連続性で、小、中合同ではないのかということですが、去年は午前中、小学校が全体会をやっているとき、中学校は部会を行い、午後、小学校が部会のときに、中学校が全体会を行うという形で実施したところ、指導主事は全体会に出られなかったり、各自の専門部会にしか出られないという状況でした。確かに小、中合同で一堂に集めてというのもあるのですけれども、まず人数のことでそれができないということ。それから、小、中合同ですと、それぞれの部会になりますので、指導主事は一つしか分担ができないということで、かえって合同でやることでは、研究協議会の目的が果たせません。そこで、小、中学校を別々に行うことにより、例えば小学校部会で算数部会のときには数学の指導主事も一緒に入って助言をする。そして中学校部会のときには小学校の先生が提案をする。そのような工夫が今回できたところであります。

明石委員 それはわかるのですけれども、資料にあるように、小学校のところで、海浜打瀬小の教員が「自ら問える子を育てる算数学習」について発表しています。それを中学校に行ったらどうかという形で、算数と数学の概念が、どう違うかという視点でもっと話してくれば、小学部会でもわかりやすいと思います。例えば、千葉市教育センターでは、15年間の歴史的な研究をずっとしてい

るのです。ある教科が弱く、それは小、中も共通など出ているのです。言いたいのは、同じ小学校の教員対象でも、その視点を学びの連続性という視点で出してくれると聞くほうもわかりやすく良いと思います。単なる小、中学校の先生をミックスしても良いのですが、テーマをそのような形で出してくれると、聞くほうも本協議会のテーマと協議会の個別発表がつながってくる。これは私の意見ですけれども。そのようにやってくれると、もっともっと良くなるという感じがします。

山本指導課長 今回のテーマについては、各指導主事、そして参加者全員に、それを意識づけた研修をしてもらうということでテーマを設けました。この海浜打瀬小学校の発表については、昨年度まで行った研究成果を発表してもらうということなので、そのテーマとは少し違うものが発表されることは、致し方ないと思います。そのため、来年も海外派遣や長期研修の成果発表や、教育センターの研究の成果発表、また、2年間取り組んできた研究指定校の研究の成果発表等を考えています。

明石委員 補足ですけれども、中学校の発表はすごいです。よくできているのです。「9年間で育てていきたい『生きる力』を育む指導の工夫」というのを小、中の教諭が発表していますね。非常にわかりやすく、個人的にはこのイメージだと思っていたのです。

明石委員 このような視点をたくさん出していただけると非常に良いと思います。

和田委員長 この川戸小・中は、私たちも研究報告会に出席しましたがけれども、研究指定校としての研究成果の発表として、小中一貫教育ということで、今回は中学で発表をしてもらいました。

これだけ大勢の教員に、一遍にその研究報告を聞いてもらう機会というのもないと思います。学校に行つてということになると、10月、11月のタイミングだとなかなか難しいと思いますので、今後、より選抜されたすばらしい発表を皆さんに知っていただけるようなプログラムづくりをまたお願いします。

篠原委員 質問ですけれども、昨年、海浜打瀬小の算数の研究報告会に行きました。いろいろなものをつくって本当にわかりやすい授業だったのですけれども、そのような小学校の授業を中学校の教員が見に行く機会はあるのですか。

山本指導課長 例えば、海浜打瀬小でいいますと、近くの打瀬中などには声をかけています。どの中学校でも行って良いのですけれども、それ

それぞれの学校の日程上、なかなか厳しいところもあると思います。そのような意味では、小学校の授業を中学校の教員が見る、中学校の授業を小学校の教員が見るということは、千葉市全体で行っている小・中連携の中で進めていければ良いと思っています。

また、千葉市教育研究会については、6月、10月、11月に、主に授業研究を行っており、特に11月には小・中学校合同で、今年は小学校の授業を中学校の教員も見に行けるように、来年は中学校の授業を小学校の教員が見に行けるようにという工夫を図っている部会が多くあると聞いています。

和田委員長 少し話はそれてしまうのですが、研究報告会はどうしても10月の後半から11月あたりに集中しますよね。そうすると、やはり自分の学校の子どもたちの授業のこともありますから、中学校の教員が小学校を見たい、小学校の教員が中学校を見たいといっても、なかなか学校を留守にすることができないと思うのですが、日程というのは致し方のないことなのではないでしょうか。

山本指導課長 2年間の研究ですので、余り早いと、研究の成果が出ないというところがあり、どうしても10、11、12月の初めくらいとなっています。1月というのも稀にありますが、2月、3月になりますと、卒業や、まとめの時期で、そちらの準備等もありますので、11月を中心に報告を行い、その後も研究を続けて1年のまとめを行って学校がほとんどです。

和田委員長 教科ごとに開催日が違うので、教員は全てに出る必要はないと思いますが、せっかく開催していても教員が参加できなくては意味がないので。わかりました。

明石委員 3学期制と2学期制の全体の組立てで、3学期制の場合は6月や10月くらいの発表が結構ありましたが、2学期制になっても変わっていない。そのような発表スタイルはこのままで良いのでしょうか。例えば、筑波大附属小学校の研究発表会は2月の中旬なのです。なぜかというと、一番皆さんが出張しやすいから、たくさん見に来てくれるのです。だから、学校は忙しいというけれども、2月は意外と、余った出張旅費を使って東京まで行きやすいのですよ。1月か2月の頭あたりでも良いかもしれない。千葉市は仙台市と同様に2学期制を早く導入していますが、そのような研究スタイルも含めて、2学期制の中で過密となることを避け、1月の下旬に開催するなど、従来の発想を少し変えていくようなことも検討してくれると良いと思います。

篠原委員 小学校は良いのですけれども、中学校は1月の終わりから2月にかけて高校受験があるので、教員の負担になるのではないのでしょうか。

明石委員 例えば2日間だけ秋休みを使って、千葉市は2日間全部学校を休みにして研究発表をするなど、もう少し内部で検討してもらいたいです。

和田委員長 思い切った検討をしてもらいたいですね。

今までできなかったから、これからはできないというわけではないと思うので、今までできなかったことも、できることがあるかもしれません。そのあたりについて、実現に向けた検討をお願いしたいと思います。

報告事項(3) 平成26年度中学校体育大会の結果について

和田委員長 保健体育課長、報告をお願いします。

津野保健体育課長 報告事項(3)「平成26年度中学校体育大会の結果について」、報告します。

まず、7月19日から24日の6日間にわたり開催しました千葉市中学校総合体育大会は、おおむね天候に恵まれ、予定どおり終了することができました。大会2日目の20日には、教育長と学校教育部長が各会場を視察しました。

千葉県中学校総合体育大会は7月25日から8月2日まで、関東大会は8月5日から8月12日まで開催されました。関東大会の卓球については、千葉ポートアリーナで開催されました。

なお、全国大会については8月17日から25日まで四国ブロックで開催されました。

千葉市中学校総合体育大会において、団体種目では、新体操で蘇我中学校、ソフトテニス女子で花見川第一中学校、柔道女子で幕張本郷中学校が3年連続優勝を果たし、永久杯を獲得しました。

個人結果につきましては資料7、8ページをごらんください。

次に、千葉県中学校総合体育大会・関東大会・全国大会の団体結果ですが、まず、千葉県中学校総合体育大会では、卓球男子で千城台南中学校、ハンドボール男子で若松中学校、同じく女子で花園中学校、柔道女子で幕張本郷中学校がそれぞれ優勝しました。関東大会では、卓球男子で千城台南中学校が第5位となり、ハンドボール男子で若松中学校が準優勝となり、全国大会に出場しました。また、柔道女子で幕張本郷中学校が2回戦敗退となりましたけれども、県総体で優勝しているため、全国大会に出場しまし

た。全国大会では、卓球男子で千城台南中学校が予選リーグ敗退、ハンドボール男子で若松中学校が2回戦敗退、柔道女子で幕張本郷中学校が予選リーグ敗退となりました。

資料10ページからは、千葉県中学校総合体育大会・関東大会・全国大会の個人結果を載せています。

千葉県中学校総合体育大会では、陸上で2種目、水泳で5種目、体操競技・新体操・卓球でそれぞれ1種目、柔道で3種目が優勝しました。関東大会では、陸上競技の共通走高跳女子で、山王中学校3年の浅田楓さんが優勝しました。体操競技の個人総合男子で、泉谷中学校2年の村山覚人君が優勝しました。新体操の個人総合女子で、高洲第一中学校2年の柴山瑠莉子さんが第3位に入りました。柔道57キログラム級女子では、幕張本郷中学校3年の菘和田奈未子さんが準優勝、70キログラム級女子では、幕張本郷中学校の伊庭ゆうかさんが第3位に入りました。

全国大会では、団体3種目と個人7種目で、合計44人が出場しました。大会では、打瀬中学校の持田早智さんが、水泳競技女子100メートル自由形と200メートル自由形の2種目で優勝し、いずれも中学新記録というすばらしい成績をおさめました。また、泉谷中学校の村山覚人君が、体操個人総合で準優勝、種目別の跳馬で準優勝しました。

なお、9月に選手、顧問、校長が教育長に、優勝並びに準優勝の報告をする予定です。

内山委員 何名か全国大会で優秀な成績を上げており、喜ばしいです。

私の関係していましたが陸上競技は少し残念な結果でしたけれども。お尋ねしたいのは、この指導に当たる顧問の取組みの積極性についてです。恐らく競技を専門にやってきた教員は数少ないと思うのです。ある陸上競技部の顧問で、「私は吹奏楽部の出身です。」という方もいました。聞きたいのは、積極的に指導しているという姿勢がどのくらいあるだろうかということ。それと、その負担がどうかということ。授業をやりながら、部活動の指導に当たるという負担を心配しているのですけれども、そういった積極性並びに負担について、状況がわかれば教えてください。

それから、民間の機関を利用して、例えば水泳など、幾つかあると思うのですけれども、そのような活動の場のようなところに参加する子どもたちと、それから部活動だけの子どもたちは、やはり差がつくのかなと思います。その辺のところがもしわかれば

教えてください。

津野保健体育課長 今、教員の積極性と負担ということでしたけれども、数字上で負担に感じているとか積極的に取り組んでいるというところまでの調査はしていませんが、ご指摘のように朝練習、そして午後の練習、さらには週休日の練習、あるいは試合等で、教員は負担になっているというか、疲労感があることは、十分考えられます。ただ、一生懸命子どもたちのために、子どもたちを伸ばしてあげようという思いで、積極的に、情熱を持って取り組んでいる顧問が多いというのは間違いのないことだと思っています。

それから、民間のスポーツ団体等に加入している生徒と部活動で指導されている子どもたちということですが、確かに今回、全国大会で優勝した持田さんと準優勝の村山君ですが、2人とも水泳競技と体操競技で民間のスポーツ団体に参加している生徒です。だからといって、学校、部活動で指導している選手がすべての面で劣っているかということ、必ずしもそのようなことは言えないと思います。

和田委員長 泉谷中には体操部はあるのですか。

津野保健体育課長 体操部はありません。保護者の意向で、今回、千葉市の総合体育大会に、ぜひ、個人の種目として出してほしいという要望があり、学校が部活動の顧問をつけ、大会に参加したという運びです。水泳や新体操も、そういった状況にあるものはあります。

和田委員長 わかりました。やはり種目によって、そのような生徒とはとても差が出ますね。陸上は、どちらかということ学校の部活動でということが多いと思いますけれども。

報告事項(4) 平成26年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技大会の結果について

和田委員長 保健体育課長、報告をお願いします。

津野保健体育課長 報告事項(4)「平成26年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技大会の結果について」、報告します。

まず、開催期間ですが、8月1日から6日までの6日間、開催しました。

次に、開催会場及び観客数等についてですが、大会初日は千葉ポートアリーナにて、多くのご来賓、関係者、選手、役員、観客の皆様にご来場いただき、開会式を実施しました。式典には、加曽利貝塚のオリジナルキャラクターである「かそりーぬ」が登場し、式典を盛り上げてくれました。

2日目は、学校対抗戦の1回戦から3回戦まで、市内5会場で熱戦が繰り広げられ、3日目は千葉ポートアリーナにて準々決勝から決勝まで行い、表彰式を行いました。4日目、5日目は、個人対抗戦の1回戦から4回戦までを市内5会場で、6日目は、千葉ポートアリーナにて準決勝、決勝を行い、表彰式、閉会式が行われました。6日間の観客数は約3万5,000人と、暑い中でしたが、多くの皆様にご来場いただきました。

次に、大会結果についてですが、学校対抗戦は、福島県の富岡高校が大会史上初となる男女同時優勝を遂げました。また、本県代表の西武台千葉高校の女子が第5位と健闘しました。個人対抗戦シングルの男子は、福島県富岡高校の古賀穂選手、女子は福井県勝山高校の2年生の山口茜選手が昨年度に引き続き優勝しました。本県代表の西武台千葉高校の荒木萌恵選手は、第3位入賞と活躍しました。個人対抗戦ダブルスの男子は、大阪府東大阪大柏原高校の下農走・常山幹太選手、女子は、埼玉県埼玉栄高校の尾崎沙織・川島里羅選手が優勝しました。本県代表は、男女ともにベスト16に入りました。

最後に、大会全体を振り返ると、白熱した接戦が多く、終了予定時間が延びることもありました。心配された熱中症は、軽い熱中症・過換気症候群と診断された2人の選手がいましたが、大事には至りませんでした。

ほかに、食中毒や事故等もなく、皆様のご協力により無事に大会が終了しましたこともあわせて報告します。

内山委員 私も4日に観戦したのですけれども、コートが12面とってありましたが、それでも足りないので、ほかの学校のコートを使ってやっていました。やはり全国大会をやろうとすると、非常に大変な負担がかかるのだと思いました。得点をめくるような補助の生徒がいましたが、あれはどのような立場で、どのような人たちが参加したのでしょうか。

津野保健体育課長 生徒活動ということで、県内の高等学校の生徒が補助員という形で協力をしていただいています。

和田委員長 大きな大会でしたので、運営当日を含めてご苦労があったと思いますが、大きな事故もなく無事に終わられて、本当にご苦労さまでした。

議案第34号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検及び評価について

和田委員長 企画課長、説明をお願いします。

大崎企画課長 議案第34号「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検及び評価について」、説明します。

本議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検及び評価の結果に関する報告書について、千葉市教育委員会組織規則第8条第5号の規定に基づき、議決を求めるものです。

この制度の概要についてですが、教育委員会の権限に属する事項について点検・評価をすることにより、教育委員会自らの事務の適切な執行について確認するとともに、市民に対し行政の説明責任を充実させ、教育行政に対する市民の信頼の向上を図ることを目的として平成20年度から実施されており、毎年度、その権限の属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、これを公表することが義務づけられています。

本議案の対象となる年度は、平成25年度、対象となる事務は、教育委員会が管理・執行する事務です。

また、点検・評価を行うに当たり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項の規定により、教育に関し、学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされ、本年も千葉大学教育学部教授の松尾七重氏、生涯学習政策を専門とする国立教育政策研究所総括研究官の岩崎久美子氏から所見をいただいています。

初めに、点検・評価の概要についてですが、「千葉市学校教育推進計画」及び「第4次千葉市生涯学習推進計画」に基づき、点検・評価を行っており、施策ごとの構成は、概要、成果指標、課題への対応となっています。

次に、点検・評価の結果についてですが、まず、本市教育委員会による自己評価から説明します。

まず、学校教育についてですが、全学校への図書館指導員の配置や朝読書による読書活動の充実により、国語力の向上に効果을 上げていること、理数教育において、少人数指導教員や理科支援員の配置が理科・数学離れの対応として大きな効果を上げていること、昨年度実施された全国学力・学習状況調査結果において、全国平均や千葉県平均を大きく上回るなど、良好な状況にあると

言えます。

一方で、「学校の勉強が好きだ」と肯定的に回答する中学2年生の割合が小学5年生の割合と比較すると伸び悩んでおり、その要因の一つとして、新中学校学習指導要領の全面实施により、学習内容が増加し、勉強に対する難しさを感じている生徒が多くなったことが考えられます。

今後、わかりやすい授業、魅力ある授業を定着させていくため、現場を積極的に計画訪問し、目標値に近づけて参りたいと考えています。

また、体力の向上に関して、新体力テストにおいて、小学校の各学年・種目で全国平均を上回ることができました。これは、体育の授業に加え、学校給食の完全実施により、子どもたちへ栄養のバランスのとれた豊かな食事が提供されていることも、良い結果に結びつく要因の一つになっているものと考えています。

そのほか、学校の情報化、耐震化の取組み、高等学校改革などについて評価をしています。

なお、教育用コンピュータ全体の整備率向上と合わせて、最新のタブレット型端末の教育効果などについての検証とさらなる学校教育のICT化に向けた整備を進めるため、今後も予算の確保に努めて参りたいと考えています。

次に、生涯学習についてですが、学習活動を通して培われた学びの成果は、市民が主体となって展開される家庭教育の支援や放課後の子どもの居場所づくり等の事業、生涯学習施設でのボランティアの活用を生かされており、地域の教育力向上につながっています。

一方で、放課後子ども教室の年間延べ参加児童数が、昨年度と比較して約1万人減少しており、事業開始から7年が経過し、事業の中心を担うコーディネーターの高齢化と後継者不足等が実施日数減少の要因になっているものと分析しています。

今後は、地域のボランティアを主体とするこれまでの運営形態や手法を抜本的に見直し、子どもルーム等との一体的な運営も視野に入れて、こども未来局との連携に努めるなど、国や他都市の動向を注視しながら、子どもたちの居場所づくりを総合的に検討して参ります。

文化財の保護については、多種多様な文化財を価値・内容によって適切な保護措置をとるとともに、教育資源として活用するた

め、博物館と埋蔵文化財調査センターが連携し、普及開発事業の充実に努めています。

また、世界有数の貝塚である加曽利貝塚の国特別史跡指定を目指し、出土資料の再整理とソフト・ハード両面の整備を進めるとともに、利用者の利便性向上を図るため、園内外への案内誘導標識の設置や対外プロモーションのシンボルとして活動するオリジナルキャラクターの公募等を行いました。

今後も、市民意識醸成のため欠かせない、千葉の歴史や文化を体現する文化財を再認識してもらうために、幅広い年齢層の市民に文化財の価値と内容を伝え、歴史や文化に親しめるような施策を進めて参ります。

学びを支える環境づくりについては、公民館において、利便性と公平性を向上させるために、25年10月からインターネットによる施設予約システムを導入し、団体育成と合わせて新規利用の促進、稼働率の向上が図られるよう努めています。

また、図書館においては、特別整理期間の短縮や隔年実施による開館日の拡大、郷土資料のデジタル化による保存と活用など、利用者サービスの向上を図ったところです。

さらに、科学館は、千葉市科学都市戦略のキーステーションとしての役割を果たすため、今後も連携先を拡充し、事業の拡充・発展を図って参ります。

一方で、公民館は昭和50年代に数多く建設されたことから、他の生涯学習施設とともに老朽化対策が喫緊の課題であり、今後、公民館等社会教育施設の整備計画等を策定する必要があるものと考えています。

最後に、評価委員からのコメントについて説明します。

まず、松尾委員の評価では、特筆すべき点として、「理科の勉強が好き」と肯定的に回答する小学5年生の児童の割合が高いなど「わかる授業を推進し、自ら学ぶ力を身につけさせる」取組み、体力テストにおいて、各学年・種目で全国平均を上回る割合が24年度から25年度で急激に増加するなど、「体力を高め、健康な体を育む」取組み、25年度に高等特別支援学校が開校するなど「多様な教育的支援を充実させるための教育環境整備を一層進める」取組みなどが充実していることについて、高い評価をいただいています。

一方で、今後の課題として、児童・生徒9.5人に1台のコン

コンピュータが配備されている状況は不十分であり、また、事務用コンピュータを教職員1人1台配置することは、教職員の負担軽減の観点から早急に措置すべきこと、家庭や学校の支援に関して、人材発掘の方策を検討し、参加者の増加につなげるための仕組みをつくること、学びの連続性を重視した教育を目指し、カリキュラムの実現のための整備とあわせて、相互交流にとどまらない幼小の接続について考えていくこと、などについて意見をいただいています。

また、岩崎委員の評価では、子育て支援に関して、小中台中学校区家庭支援チーム「コモンズ」などの取組みの成果などを踏まえ、地域人材を発掘し、財政事情が許す限り、他の地域へも普及することが望ましいこと、科学都市ちばに関し、SSHの指定を受けている千葉高校などにおいて一定の成果は認められるものの、科学館、生涯学習センターなどの生涯学習、社会教育施設、科学技術教育の振興を目的とする千葉高校という場の活用、そして千葉市の持つさまざまな資源活用は、さらに考慮される余地があること、子どもの読書活動に関し、よりスムーズな蔵書、資料の共有を図るには、公民館図書室への物流と同様、将来的には学校図書館にも物流が完備されることが望ましい、などのコメントをいただいています。

中野委員 加曽利貝塚の国特別史跡指定を目指しているということですが、事務的には文部科学省などに書類を出すのでしょうか。もし出すのであれば、どの程度進んでいるのか教えてください。

横田文化財保護室長 国に対しての申請については、まだ書類等は出していませんが、それに向けての協議は部課長とは進めています。

明石委員 まだ出していないのですか。

横田文化財保護室長 まだ申請はしていません。

明石委員 かなり前から話を聞いていましたので、もう少し進んでいるものと思っていました。手続の内容まではわかりませんが、審査には相当時間がかかるので、まあ相手がいることですが、

和田委員長 申請に至るまでに状況を整えてから申請しようということですか。

横田文化財保護室長 そうです。そのために今、再整備等を進めているところです。

増岡生涯学習振興課長 申請については文化庁とよく協議して、文化庁の職員の方がこちらに来て、一緒に報告書をまとめて出していくことになりま

すので、そのための協議を今しているところです。

明石委員 やはり注文は厳しいのですか。

増岡生涯学習振興課長 やはり特別史跡というのは、ここのところ出ていないのです。

例えると、オリンピックに出るくらい難易度が高いということで、加曽利貝塚は当然それに値する史跡だとは考えているので、やはり国の指導等を仰ぎながら慎重に進めていく必要があります。

和田委員長 文化財でいえば国宝と同じということですね。

増岡生涯学習振興課長 そうです。

和田委員長 私たちもできる限り応援したいと思います。

先月の委員協議会で両評価委員もお越しいただき、時間的なこともあり意見交換というところまでいかなかったのですが、毎年いろいろな視点でご指摘いただいていますので、同じ指摘が何年も続かないようにしないといけないといつも思っています。最近では委員協議会でもなかなか時間がとれないのですが、前回、明石委員からも話がありましたけれども、この事務点検・評価は、一番大事な、一番良くわかるものだと思いますので、私たちが今後テーマを決めて、大きな今後の課題ということで捉えて、委員の中でも、私たちの方向ということでも、話していきたいと思いますので、事務局と協議しながら進めていきたいと思っています。

議案第35号 千葉市立高等学校授業料等徴収条例施行規則の一部改正について

和田委員長 学事課長、説明をお願いします。

小川学事課長 議案第35号「千葉市立高等学校授業料等徴収条例施行規則の一部改正について」、説明します。

まず、規則改正の目的ですが、国において母子及び寡婦福祉法等が改正されることに伴い、千葉市立高校に適用している千葉市立高校授業料等徴収条例施行規則の一部を改正するものです。

次に、規則の一部改正の経緯ですが、母子及び寡婦福祉法改正に関しては、ひとり親が就業し、仕事と子育てを両立しながら経済的に自立するとともに、子どもが心身ともに健やかに成長できるよう、また、子どもの貧困対策にも資するよう、ひとり親家庭への支援施策を強化することが目的であり、法律名を「母子及び父子並びに寡婦福祉法」に改称するとともに、支援施策の対象が父子家庭にも拡大されました。この改正に合わせて千葉市立高等学校授業料等徴収条例施行規則の中の類似する表記を改めるということです。

具体的には、第2条第3号にあります「母子家庭」を「母子家庭、父子家庭」と改めるものです。

本規則の施行年月日は、平成26年10月1日を予定しています。

7 その他

- (1) 全国学力・学習状況調査について、明石委員から意見があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

明石委員 今回出ていませんけれども、文科省の全国学力・学習状況調査の発表がありました。あれを受けて市としてはどのような手を打つのか、次回の教育委員会会議に出てくるのでしょうか。

山本指導課長 一応数字だけは用意しましたので、お渡しします。ただ、これから質問調査等も含めて詳しい分析をして、ただ数字だけで一喜一憂するのではなく、本市の小学校、中学校でどのような授業改善等を図っていくべきかというところもまとめて、各学校に報告をしていきたいと思います。また、ホームページで、保護者や市民にも、結果の概要を公表していきたいと考えています。

和田委員長 ホームページ等での公表ですと、やはりどうしても数字のほうが目についてしまいます。分析のほうが大事なわけですから、それが表面に出るような形で、ぜひ公表をお願いします。

8 その他

- (1) 第9回定例会は、事務局において日程を調整の上、開催日時を決定することとした。

9 閉会

和田委員長より閉会を宣言